

議会
だより

あしや

町

NO. 200

平成 31 年 2 月 15 日発行
福岡県芦屋町議会



どんど焼き
無病息災を祈って...

もくじ

12 月定例会

- 12 月定例会 P 2
- 1 月臨時会 P 8
- 6 人が町政を問う（一般質問） P 9
- 町かどインタビュー P 16

議会録画中継配信中

詳しくは、芦屋町ホームページをご覧ください。
なお、配信の開始は本会議終了から 7 日後（休日のぞく）になります。



録画中継

12月定例会

第4回定例会が、平成30年12月10日から20日までの11日間の会期で開催されました。12、13日に行われた一般質問では、6人の議員が登壇しました。条例、補正予算など7議案が上程され、全ての議案が可決されました。

条例

バス条例の改正

(満場一致・可決)

芦屋タウンバスの中央病院・遠賀川駅線については、浜口区民や遠賀町民の要望を受け、遠賀川堤防経由をポートレール芦屋沿いの県道に変更。また、同一距離区間の運賃が異なるため、一部区間の運賃下げを実施する。

◆開始日

・平成31年4月1日



町内を走るタウンバス

その他

地方独立行政法人芦屋中央病院第2期中期目標の策定

(賛成多数・可決)

芦屋町において、芦屋中央病院が達成すべき業務運営に関する目標を定める。

◆中期目標の期間

・2019年4月1日から2023年3月31日までの4年間

問

①常勤医師の確保は。

②外来の待ち時間短縮は。

③総合相談窓口の相談件数は。

答 ①常勤医師は27年度末で12名が29年度末では16名と4名増員した。

②会計のレジを1台増やし、電子カルテも導入したことで、待ち時間の短縮を図っている。

③29年度の相談件数は3568件である。

問

芦屋中央病院は救急病院なのか。

答

救急告示病院であり、体制が整っていれば受け入れることができる。

③29年度の相談件数は3568件である。



芦屋中央病院の総合相談窓口の様子



芦屋中央病院の夜間・救急入口

問

第1期の目標との変更点は何か。

答

基本的に目標は大きく変更していないが、次の事項が変更されている。

①病院が新しく建て替わったため、建て替えに関する事項を削除している。

②第三者機関による評価が行われることになったため、それに関する内容を盛り込んでいる。

全世帯へ戸別受信機設置を検討する

ため設計委託費を計上！

一般会計補正予算(第3号)
(賛成多数・可決)

歳入では、重度障害者医療費補助金465万円やがんばれ芦屋町ふるさと応援寄附金536万9000円を増額し、歳出では、コンビニ交付システム導入業務委託、公共施設ブロック塀改修工事費ほか、汐入川改修県事業負担金780万円等を計上している。



補正のあった歳出の主な内容	補正額
芦屋町地域情報伝達システム基本設計委託 (災害発生時の情報を伝達する方式を比較検討するための基本設計委託)	—
がんばれ芦屋町ふるさと応援基金積立金	536万円
コンビニ交付システム導入業務委託 (所得課税証明、住民票、印鑑証明、戸籍謄本等が一部のコンビニを除き全国のコンビニで交付が可能となる)	—
重度障害者医療費助成金	930万円
ひとり親家庭等医療費助成金	140万円
公共施設ブロック塀改修工事 (寿楽会館、山鹿保育所、幸町公園、浦公園、柏原公園)	—
汐入川改修県事業負担金	780万円
要保護準要保護児童生徒就学援助費 (要保護準要保護児童生徒への入学準備の援助費)	201万円

※委託料・工事費・備品購入費については、金額の公表を行っていません。



各家庭に設置された岡垣町の戸別受信機

◆芦屋町地域情報伝達システム基本設計委託

問 芦屋町地域情報伝達システムとはどのようなものか。また、全戸に配布するのか。

答 このシステムは災害に強い無線連絡システムであり、戸別受信機で災害情報を受信できる。戸別受信機は全戸に設置する。

問 栗屋や田屋地区などに設置されている有線放送との関係はどうなるのか。

答 有線から無線に変更することも基本設計で検討する。

◆コンビニ交付システム導入業務委託

問 コンビニ交付システム導入業務委託の事業内容は。

答 コンビニ等でマイナンバーカードを使用して、戸籍謄本・住民票・印鑑証明・所得課税証明等が取れるようになる。(2020年1月から開始予定)

取得方法の詳細を住民課にお問い合わせください。

問 町の窓口での証明書交付は無料のものがあるが、コンビニで取得した場合は。

答 窓口で交付した場合は無料であっても、コンビニの場合は、有料になる。

問 戸籍謄本を取る要件は何か。前提として、マイナンバーカードを取得していることや本籍地のある自治体がコンビニ交付システムを導入していることが条件である。

問 町がコンビニ等に支払う手数料は。1件につき115円である。

◆要保護準要保護児童生徒就学援助費

問 小・中学校新1年生に対する入学準備のための就学援助費の支給はいつか。

答 今年度までは7月に支払っているが、来年度からは3月に前倒して支払う。

反対

【税金の無駄遣いだ】

妹川征男議員

マイナンバーカードを利用して税の証明書や住民票等をコンビニで交付できるシステムの導入に約2700万円を支出することに反対する。理由は次の3点である。
①高齢者がコンビニの機械を自分で操作することが難しい。カード発行率は、芦屋町は僅か11.2%であり、どれだけの利用者がいるか。
②町民の利便性というが最小の経費で最大の効果という財政規範に照らしても疑問。
③個人情報漏洩と悪用の危険が付きまとい、コンビニ交付でカードを持ち歩くことの危険性は拡大する。

◆汐入川改修工事県事業負担金

問 汐入川改修県負担金の事業内容及び地元説明会は。

答 県が2019年度に実施する事業費3900万円の20%、780万円を計上している。地元説明会は、2019年6月ごろに第1回目を開催し、2回目を9月ごろに工程の説明と受注業者の紹介を考えている。



汐入川の改修工事



操作画面



住民票等が発行できるコンビニのマルチコピー機

動議

特別養護老人ホームに係る
言動に対する調査特別委員
会の設置を求める決議案

(賛成多数・可決)

貝掛俊之議員より、妹川征男議
員の特別養護老人ホームに関する
一般質問における一連の発言およ
び行動は一事業者が特養を設置で
きるように利益を誘導している
と思われるので、その真偽を明確に
する必要があるのでの考えから「特
別養護老人ホームに係る言動に対
する調査特別委員会」の設置を求
める動議が提出された。これに対
し、妹川議員から発言（弁明）が
あった。

問 なぜこの時点で動議を提出
したのか。

答 一般質問されたときから考
えていたが、住民の皆さん
の意見を尊重して提出した。

田島議員の辞職勧告決議案

(賛成多数・可決)

貝掛俊之議員より、田島憲道議
員の一連の発言および行動は議員
として品位と資質に欠けると、以
下の理由で辞職勧告決議案の動議
が提出された。①無礼な発言は地
方自治法第132条に違反してい
る。②事実確認が取れていないの
に「自衛官や子どもたちが薬物を使
用している」との発言は無責任で
ある。③田島議員が提出した議長
不信任案は権利の乱用である。④
田島議員が提出した民生文教常任
委員長不信任案は未成年の案件で
あり責任は重い。

問 議員辞職ではなく、田島議
員が9月議会で確約した各

団体への謝罪を遂行させること
が、議会として取り組むべきこと
と考えるが、どのように思ってい
るのか。

答 本心に反省しているのであ
れば、すぐに行動に移すべ
きであるが、観光協会には12月議
会の数日前に行かれ、芦屋基地に
は一切連絡も謝罪もされていない
。本心に反省しているのか疑問
である。

反対

【安易に動議を出すべきではない】

刀根正幸議員

私たちは住民から負託され、議
会活動をやっている。安易に動議
を出し議会を混乱させることは、
今後の活動にも影響してくる。ま
ず1つの手段として、議会運営委
員会で審査し、議会上がってく
るようになる必要があると考える
ため反対する。

賛成

【議場での発言は真実を】

内海猛年議員

田島議員が提出した29年12月の
「民生文教委員長不信任案」動議
及び30年9月の「議長不信任案」
動議は、事前に議会運営委員会等
で審議されていない。田島議員は
発言の真偽を、自ら確認すべきで
ある。特に子どもたちの件は、教
育委員会には一度も尋ねられてい
ない。このように議会を混乱させ
る問題を起こすことは、議員とし
ての資質に欠けていると言わざる
を得ない。また、ブログでも自分
の思いだけを伝えており、議員と
しての資質を高めるためにも議員
辞職勧告はやむを得ない。

12月定例会

1月臨時会

一般質問

反対

【まよ謝罪を遂行させるべきだ】

川上誠一議員

辞職勧告決議は成立しても効力はなく、議会の権威が損なわれるものである。また、議会の本来の使命である議案の審議が停滞し、住民の信頼を失うことにもなる。辞職勧告は、動議により提出されるものでなく、本来、議会運営委員会に付託され審議されるものである。議会としてすべきことは辞職勧告ではなく、関係団体への謝罪を完全に行わせることである。最近の頻繁な動議による辞職勧告等は、議会の品位と権威を傷つけることになり、慎むべきである。

賛成

【田島議員は自ら辞職すべき】

辻本一夫議員

田島議員の「子どもが薬物を使用している、町内に薬物が蔓延している、基地隊員が覚せい剤を使用している」の発言は、調査の結果、何一つ事実を裏づけるものが無かった。関係者への謝罪も商工会等には挨拶程度、芦屋基地には電話さえしていない。また、私的な内容にもかかわらず、当時の貝掛議員への民生文教委員長の信任や小田議長への不信任動議の提出はむちゃくちゃであり、議員としての資質を疑わざるを得ない。議員は発言に責任を持つべきであり、辞職勧告動議には賛成する。

12月定例会意見がわかれた議案の賛否一覧

議案の賛否について掲載しています。掲載のない2議案は、満場一致で可決されました。

○：賛成、×：反対、退：退出、除：除斥を表しています。

議席番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	賛成	反対	審議結果
議案名 / 議員名	内海	松岡	今田	刀根	妹川	貝掛	田島	辻本	川上	松上	横尾	小田			
特別養護老人ホームに係る言動に対する調査特別委員会の設置を求める決議案	○	○	×	×	除	○	×	○	×	○	○	—	6	4	可決
田島議員の辞職勧告決議案	○	○	×	×	×	○	除	○	×	×	○	○	6	5	可決
地方独立行政法人芦屋中央病院第2期中期目標の策定	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	—	10	1	可決
平成30年度芦屋町一般会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	—	9	2	可決
平成30年度芦屋町モーターボート競走事業会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	—	10	1	可決

議長には、賛否の意思表示をする表決権がありません。ただし、賛成・反対が同数になった場合、可否を決める裁決権があります。

平成三十一年の抱負

平成三十一年を迎え、町議会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

町民の皆さまにおかれましては、健康やかな元旦を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。

また、皆さま方には、日頃から町議会に対し、ご理解、ご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、七月には記録的な豪雨で西日本を襲った「平成三十年七月豪雨」、九月には記録的な暴風や高潮により近畿地方を中心に甚大な被害をもたらした「台風二十一号」や北海道で最大震度七を観測した「平成三十年北海道胆振東部地震」が発生するなど、大規模な自然災害が近年続いており、日頃からの防災対策や意識啓発の重要性を再認識したところであります。

地方自治体は、本格的な少子高齢化

社会の到来による人口減少問題や、公共施設の老朽化対策、自然災害への対応など、直面する数多くの課題があります。町議会としましては、町民の皆さまから信頼される議会、品位ある議会運営を目指して、議員一人一人が議会の果たすべき役割を十分に認識し、

審議能力、政策立案能力の強化に努めることにより、町議会の一層の活性化を図るとともに、行政との建設的な議論を重ねることにより、有効な政策の推進と課題解決に向けた努力をしてまいります。

私どもの任期も残すところ二カ月余りとなりましたが、町勢発展と住民福祉の充実のため、微力ではありますが、誠心誠意取り組んでまいりますので、今後とも皆さまの一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

どうか、この一年が、皆さまにとって幸多く、実り豊かな年となりますよう、ご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



芦屋町議会

議長 小田 武人

行政報告

行政報告とは町長が議会を通じて町の重要な問題の経過等を住民に報告するものです。



芦屋基地と合同の津波避難訓練

訓練

「津波及び洪水発生時における一時避難施設としての使用に関する覚書」に基づき、11月7日に航空自衛隊芦屋基地主導の下、芦屋小学校1学年を対象に、津波発生時の避難訓練を実施し、基地の避難所までの児童の誘導及び避難経路の確認を行いました。今後も、定期的に訓練を芦屋基地と連携協力して、実施してまいります。

映画制作

芦屋町をロケ地とした映画撮影の打診がありました。町としては、地域外への知名度向上や経済効果だけでなく、地域住民の郷土愛を育むことが出来るのではないかと考え、町民の皆さまのご協力も頂きながら、映画の制作が進められました。

撮影は2回に分かれ、1回目の撮影は町内各所で10月31日から11月3日で行われました。公募により組織された芦屋町映画制作実行委員会を中心に、スタッフの食事の炊き出しや、エキストラとして芦屋中学校の生徒や町民の方も撮影に参加するなど、数多くの町民の方にご協力いただきました。

1月臨時会

第1回臨時会が平成31年1月23日に1日の会期で開催されました。条例の改正や補正予算など3議案が上程され、全て可決されました。

条例

芦屋町総合運動公園の設置及び管理運営に関する条例の改正
(満場一致・可決)

総合体育館・コミュニティセンター内に、新たに冷暖房装置を設置することに伴い、使用料等を改正する。



新しく設置された総合体育館の冷暖房装置

7月～9月の1時間当たりの使用料一覧

総合体育館使用料(1時間当たり)		
	町内者	町外者
全面	1380円	2760円
全面(体育・スポーツ以外)	2070円	5520円
半面	690円	1380円
部分	280円	560円
コミュニティセンター(1時間当たり)		
	町内者	町外者
多目的集会場	1380円	2760円
多目的集会場 (体育・スポーツ利用時)	690円	1380円

※10月～6月は、使用者の申請により冷暖房を入れる(利用料は別途徴収)

問 10月～6月に冷暖房を作動した場合、使用料が高くなっているがなぜか。

答 使用者の申請により冷暖房を入れるため、使用時間の1時間前から作動するなど、7月～9月のように常時運転しているよりも電気消費量が大きくなる。ただし、日本スポーツ協会の運動に関する指針により、室内温度が28度以上になった場合は、施設管理者の判断により冷暖房を運転するが料金は徴収しない。

補正予算

一般会計補正予算(第4号)

(満場一致・可決)

歳入では、財政調整基金繰入金5900万円を増額し、歳出では、釜の里鋳物師の独立支援のための用地取得費や釜の里立礼席改修工事費、職員給料等を増額計上している。



釜の里の立礼席

芦屋町一般職職員の給与に関する条例の改正
(満場一致・可決)

平成30年度の人事院勧告に伴い、本町職員の給料を平均0.2%及び勤勉手当の支給割合を0.05月引き上げる。

問 竹垣取替業務委託や立礼席改修工事の概要は。

答 釜の里は開園から24年目を迎え、各所老朽化が進んでいる。来年度に全国的な茶会等が行われることも踏まえ、樹木の剪定、竹垣の取り替え等を実施する。また、立礼席の利用拡大を図るため、立礼席内の畳を除去し、新たに長椅子を設置する。

一般質問

町政を問う



会議録

12月12日と13日に議員6人が一般質問を行いました。

一般質問とは、議員が町の行財政全般にわたり、事務の執行状況や将来に対する方針等について所信を聞き、報告や説明を求め疑問点をたずねることです。質問する議員は、事前に質問通告書を提出し、本会議において1人60分の制限時間内で質問を行っています。

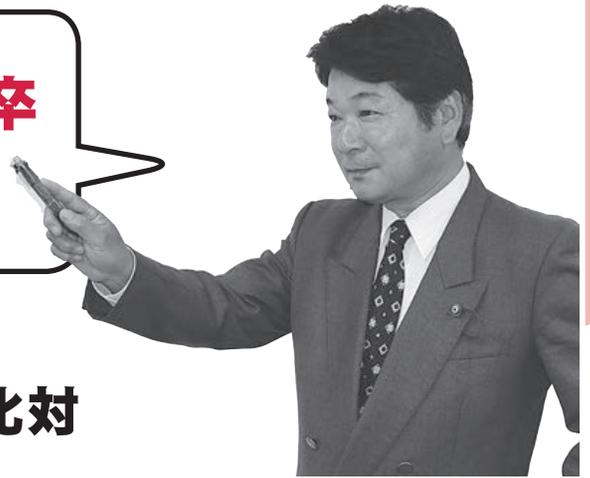
議会だよりでは、質問した議員が自ら記事を作り掲載していますが、紙面の都合上、要約しています。一般質問の会議録は、議会事務局や芦屋町ホームページで閲覧できます。

ページ	質問議員	質問事項
10	川上 誠一	◎子ども医療費の高校卒業までの無料化 ◎芦屋中央病院の差額ベッド室 ◎町民のニーズに応える町政
11	松岡 泉	◎ヘルプカードの普及推進 ◎介護予防
12	辻本 一夫	◎学力向上への課題・取り組み ◎町内業者の町への協力・支援
13	刀根 正幸	◎第5次芦屋町総合振興計画
14	妹川 征男	◎芦屋港のレジャー港化 ○いじめ防止対策協議会条例制定の進捗状況
15	田島 憲道	◎地方創生事業の効果と検証

◎：記事掲載あり ○：記事掲載なし



子ども医療費の無料化を高校卒業まで拡充すべきではないか



町長

高校卒業までの無料化は少子化対策、定住促進に必要と考える

かわ 川 かみ 上 せい 誠 いち 一

答 全国町村会を通じて国に無料化を求めている。今後の動向を見て、少子化対策や若者の定住促進のため、町単独での高校卒業までの無料化はその推移を見ながら決断すべきである。

問 高校卒業まで支給している自治体は一人当たり1万2000～1万7000円程度で、費用は約450万～600万円程度と見込まれ、財政負担はそれほど大きくない。子育て世代の負担軽減や定住促進のためにも高校卒業までの無料化を行うべきでないか。

答 人数は369人。一人当たりは2万5000円で約920万円と試算している。

子ども医療費の高校卒業までの無料化



芦屋中央病院の受付の様子

問 厚労省は差額ベッド代を求めてはならない理由として①同意書による確認を取っていない。②治療のため個室に入った。③病棟管理上の理由で個室に入った。等を挙げているが、中央病院の対応と料金は。

芦屋中央病院の差額ベッド室

答 通知どおりの対応をしており、差額ベッド料金はホームページや受付横の掲示板に掲載している。

町民のニーズに応える町政

問 私たちが行った町民アンケートでは、憲法9条改正や消費税10%への引き上げについて多くの町民が反対していた。国の政治で町民に不利益を及ぼす施策には町民の立場で国にものを言う毅然とした態度を示すべきではないか。

答 憲法論議は国民全体でしっかりと議論されるべきものであり、消費税については社会保障費への対応のためにも引き上げは必要と考える。



まつ松 おか岡 いずみ泉

ヘルプカードを携帯した人への接し方は

福祉課長

ゆっくりと相手の話を聞き、支援してほしいことに対応を

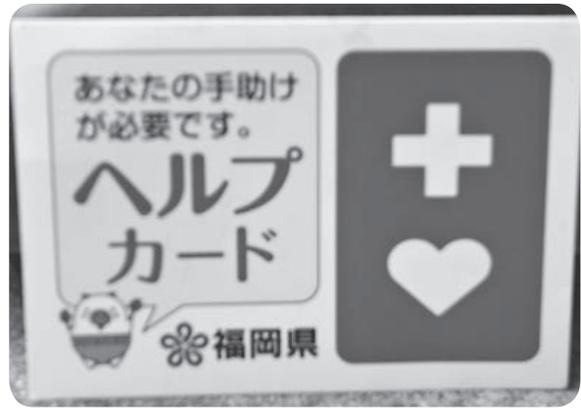
ヘルプカードの普及推進

問 ヘルプカードは、障がい者などが携帯し、いざという時に必要な支援や配慮を周囲の人にお願ひするためのものである。このカードを携帯して役場に來られた聴覚障がいの方への対応は。

答 人によつて、聴力の度合いはさまざまであるため、次の方法で対応を行っている。
①コミュニケーションボードを用いた筆談②助聴器を用いて言葉を聞き取りやすくする③手話を用いる

問 住民が町中でカードを持ち、困っている人を見かけた時の接し方は。

答 ヘルプカードを見かけ、困っていると感じられたら声をかけて頂きたい。ゆっくりと相手の話を聞いて、支援してほしいことに対応していただきたい。



福岡県から配布されているヘルプカード

問 今後のヘルプカードの啓発推進は。

答 福岡県がヘルプカードの普及促進を開始した平成28年から、町でも広報、ホームページでの周知、配布に努めてきた。今後一層の普及促進に努めていきたい。

介護予防

問 町では、高齢者福祉計画を策定し、介護予防事業

等に取り組んでいる。近年の要介護認定率は、やや減少、横ばいだが、介護予防事業の成果は。

答 介護認定者数も減少している。町民一人一人の意識が高まり、筋力アップ、栄養、口腔などの介護予防に取り組まれた成果の一つである。

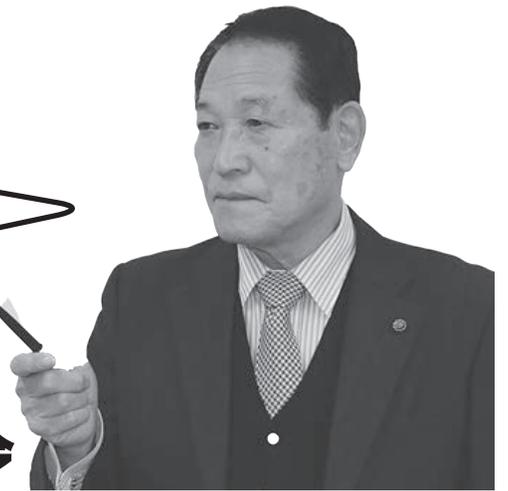
問 これからの介護予防には、地域の中での生きがいづくりや役割をもった居場所づくりが必要と考えるが課題は。

答 自分の健康のため、生きがいづくりのためという主体性を持って、一人一人が担い手であると考えていただく方を増やしていくことである。

問 生きがいづくりにもなる高齢者生活支援サービス「あしや助け合いの会」が発足したが、町の支援体制は。

答 検討段階から発足まで関わっているが、育成についても支援していく。

夏休みの期間短縮に取り組むべきでは



つじもと かつお 夫

町長

全教室にエアコンを設置した。今後気合いを入れて取り組みたい

学力向上への課題・取り組み

問 30年度全国学力・学習状況調査の結果は、2年前と比較してどうであったか。

答 小学校では国語基礎と活用、算数活用の3教科で伸びが見られ、中学校では国語基礎と活用、数学基礎と活用の4教科が下がっている。

問 目標未達成科目の取り組みは。

答 自校の学力課題を分析し、徹底して取り組む。補充学習や家庭学習の充実を図る。

問 英語教育は、2020年度から小学校・中学校で外国語活動、高学年で科授業、翌年度から中学校で新学習指導要領を全面实施。町の導入計画は。

答 2020年度から小学校・中学校で35時間、高学年で70時間の実施が義務となった。

た。来年度は移行期間で、中学25時間、高学年60時間を予定。ICT機器を活用した英語教育活動の研修を検討している。

問 4校全てにエアコンの設置が完了し、児童・生徒には良好な学習環境が整う。家より学校のほうが学習の効果は上がる。共働き世帯の保護者からも喜ばれると思う。来年度から夏休みの期間短縮を実施すべきでは。

答 郡内で芦屋町の学力は著しく低いのが実態である。現場の意見はいかがなものかと思っている。今後執行部で気合いを入れて取り組みたい。

問 先生が授業に専念できる体制づくりのため、スクールソーシャルワーカーを配置すべきでは。

答 不登校児童・生徒の減少を図るために、2019年度から常勤のスクールソーシャルワーカーを配置できるように調整している。

町内業者の町への協力・支援

問 町の活性化事業に協力・支援する業者に対し、総合評価制度の導入・見直しを行う考えはないか。

答 県と協議しながら、地域貢献度の内容の見直し、対象となる工事内容や金額の見直しを含めて検討する。



小学校の英語授業風景



とねまさゆき
根正幸

地域コミュニティの醸成と住民との信頼構築の方向性は

環境住宅課長

官学の導入を検討し、地域の問題・課題の解決を住民と進める

第5次芦屋町総合振興計画

問 以前に質問した地域コミュニティの促進には住民からの信頼が最も重要だが、自治区加入促進および自治区活性化の施策は。

答 自治区加入促進として、転入および転居時の窓口案内や、転入の多い時期には特設ブースの開設も行っている。自治区の自主的な地域づくりをサポートするため、自治区担当職員制度を導入。今後の課題は自治区活性化促進会議で協議していく必要があると考えているが、課題解決には学識経験者の意見も必要であると考えているため、組織見直しも検討する。

問 子ども会や婦人会等自治体の状況を。

答 子ども会育成会連合会では子ども会をつくるメリットを実感してもらうため、

育成会の加入者に限定したイベントを実施。また、婦人は今年度解散したが、有志の方の中には別の団体で女性としての個性を活かした活動を続けている。女性の声を生かせる場について、ボランティア活動センター等を中心に模索している。地域団体の活性化について、状況によっては社会教育委員の会議等で問題提起していきたい。

問 団体の活動を地域の活動として結びつけるためには、住民と団体、それらを引き張っていく指導者による地域の三重構造を作る必要があるが、指導者養成講座等、今後の生涯学習の部分はどう考えるか。

答 地域の活動では自治活動を行う区長や公民館長がいるが、その両輪が機能するよう指導者の育成を行うことが必要。単に地域担当課のみでなく生涯学習という一連の考えの中で行う必要がある。

問 地域によって問題課題が違いため、自地区担当職員制度では解決は難しく、計画通りに進まないと思うが、期間延長など計画を見直す考えは。

答 自治区担当職員制度は現在の事業は職員の能力アップの研修も兼ねている。職員が地域に出向き、その問題・課題を共有する。行政は自治区をバックアップする。机上の空論ではなく、動くことが一番大切である。



自治区の活動の様子

住民説明会を実施し、住民投票を行う必要があると考えるが



芦屋港活性化推進室長

情報共有、経過報告をしているため、住民説明会は計画していない

お 男 征 川 妹

芦屋港のレジャー港化

問

芦屋港レジャー港化は大規模プロジェクト。芦屋港活性化推進委員会資料の中に、市民の機運醸成も必要であると書かれている。基本計画公表後、住民説明会を実施し、住民投票を行う必要があると考えるが。

答

推進委員会は20名の委員で構成。専門分科会は4つ設けている。広報あしやにも検討経過など掲載しているが、再度、広報掲載やパブリックコメントも計画している。議会の芦屋港湾活性化特別委員会にも常に情報の共有、経過報告を行っている。従って、住民説明会は計画していない。

問

直売所と飲食店は複合施設の計画だが、事業主体は町、営業は民間事業者と思われる。しかし、テナントの参入状況は集客効果が低いことから、委員会の中でも出店ニーズ

がないのではないかと危惧する意見があるが大丈夫なのか。

答

検討中の内容であるが、当初は民間が施設を建て、整備をするという方向性を探っていたが、それは厳しいため、町が施設を建て、テナントを募集するほうが現実性があるという答えになった。

問

ポートパークにポートを浮かべる海面は、砂が堆積し陸化している。その上、細



港湾野積場に陸揚げされる海砂等

答

かな飛砂がポートパークに降り注ぎ、船主から苦情が入るのではないかと意見はあったか。プレジャーポート係留施設の専門分科会、推進委員会で飛砂の問題、堆積している状況に危惧する意見があった。対策として、県からは基本設計を行う段階で詳細に調査検討するという回答を得ている。

問

港湾西側に堆積した広大な砂浜からの飛砂、野積にあおられ、浜崎、幸町地域一带の住民は迷惑している。砂を積んだダンプが頻繁に運行し、子供を持つ親や高齢者の方が事故等を心配されている。町や県はその砂業者に対して撤退の申し入れ等を行ったことはあるのか。

答

現時点において、明確に働きかけたことはない。また搬入するダンプの数について、県に確認したが、把握していないとの回答であった。



芦屋町の施策をアピールし、人口増加を目指すべきだ

町長

ボートの財源を基金にし、さまざまな政策を実施している

た田 しま けん どう
田 島 憲 道

地方創生事業の効果と検証

問 平成30年10月末日現在、人口は1万3986人。

町の将来人口推計では、既に2020年度の1万3859人に迫っており、町民は心配している。人口は国策のため劇的には増えない。「パイの奪い合い」で、芦屋町にこういう施策があるから、移住・定住して欲しいとアピールし、人口増加を目指すべきだ。町長は、人口1万人を目処にしているのか、もしくはあまり気にしていないのか、どのように人口問題を考えるのか尋ねる。

答 大いに気にしている。ボートの収益による基金を財源として、他町との差別化を図り、グレードを上げたさまざまな施策を実施している。今後も高校生までの医療費無料化や給食費の無料化など、議員、職員一同一丸となり議論していかなければならない。

問 町の土地利用や空き店舗、空きビル・賃貸住宅や空き家などを活用した企業誘致やサテライトオフィス誘致の推進について尋ねる。

答 補助事業の見直しを行い、今年度より新たな支援として、従前からある空き店舗等活用事業補助金で、IT関連やクリエイターも活用できるようにした。空き家や賃貸アパートについても補助対象とし、補助エリアは、町全域とした。

問 視察に行くと、芦屋町の子育てや創業支援、空店舗対策の補助金、解体費用等の施策は、よそと遜色ないかそれ以上である。自然環境でも申し。これらを全国にどんどん発信していくべきだ。商店街の2つの空き店舗が危険家屋だ。1つは全てブロック壁で補強され、もう1つは、アスベスト問題で放置。町の中心市街地の大きな2つの物件が醸し出す

雰囲気は町のイメージを損なっている。今、町の景気状況は、以前のように活気あふれるとは言えない。あの物件に手を入れなければ町の活性化はどうか。これまで民間同士だからと放置されてきた問題だ。町長の考えを尋ねる。

答 誰もがああ建物、あんなに複雑で、やはり地主さんに動いていただかなければと思っている。



過疎地は課題だらけ

町かど インタビュー



浜口区の餅つき大会に参加されていた土井伶さんに芦屋町の魅力などをインタビューしました。餅つき大会は子どもからお年寄りまで幅広い年齢層が触れ合えるイベントでした。

Q 芦屋町の魅力は何ですか？

自然が豊かなところです。地域の人々もやさしく、人間性がいいと思います。

A

Q 町への要望はありますか？

商店街の飲食店等利用時の駐車場が少ないため、スーパーはまゆつの駐車場を開放してほしいです。また、今以上に保育の充実を図ってほしいです。

A



餅つき大会に参加していた土井伶さん親子



議会を**傍聴**してみませんか？

次回の定例会は**3月5日開会**を予定しています。

本会議や委員会は、どなたでも傍聴できます。また、本会議は役場1階ロビーでライブ中継をしています。

※日程は変更になる場合があります。最終決定は2月下旬に開かれる議会運営委員会で行われます。傍聴を希望する方は議会事務局にお問い合わせください。(Tel 223-3579)

- 【発行責任者】 議長 小田 武人
 【議会広報常任委員会】 委員長 川上 誠一
 副委員長 内海 猛年
 委員 妹川 征男
 委員 刀根 正幸
 委員 今田 勝正
 委員 松岡 泉

議員控室

昭和の時代から平成の時代になり、天皇の述懐にわが国の平和を語られていました。平成の時代をどう見るか。かつてない災害、原発事故、地球の温暖化など三十年の年月には数えきれない災害がありました。一方オリピックや万国博覧会など明るいこともたくさんあります。まもなく元号が変わります。

わたくしもこれから日記をつけ、この歴史的な年の一年をじっくりと振り返っていく予定です。年々年を取っていきま。年の取りがいのある一年としたいものです。

刀根 正幸

